

開催地名	青森県弘前市
開催日時	令和6年1月27日(土) 10:30～12:00
開催場所	弘前市民会館大会議室
語り部	菅野 澄枝 (宮城県仙台市)
参加者	弘前市防災マイスター 52名
開催経緯	弘前市は、比較的災害経験が少なく、市民の防災に対する意識も決して高いとは言えない状況にあるため、市民全体の防災に対する意識を高めることと、市民の中から地域防災の推進者となる防災リーダーを育成していくことが課題となっている。
内容	<p>(1) 仙台市宮城野区岩切地区の被害状況</p> <p>仙台市では昭和53年の宮城県沖地震でブロック塀の倒壊による死者が多数出たことを受け、建物・ブロック塀の耐震基準が厳しくなっていたにもかかわらず、2011年3月11日の東日本大震災でも、建物・ブロック塀の倒壊などの被害が多数あった。</p> <p>特に地区内にある七北田川周辺は地盤が弱いこともあり被害が大きかったが、岩切地区は沿岸部から内陸に約10キロメートル離れているため、津波の被害を受けることはなかった。</p> <p>東日本大震災の本震が最大震度としては一番大きいですが、実は岩切地区では4月7日の余震の方が震度が大きく(6度強)、身の回りを一度片付けて落ち着いたところで起こったために心身的にダメージが大きく、何度も続く余震もあり、それ以後は片づけだけでなく、避難を諦めてしまう人もいた。</p> <p>(2) SBL(仙台市地域防災リーダー)活動</p> <p>家庭・地域で協力し助け合い、自主防災活動を推進するために、防災に関する知識と技術を持つ市民を養成し、SBLとした。防災士を兼ねている人もいるが、SBLは防災士としての活動を目的とはしていない。自主防災組織と協力し、地域の自主防災活動や平常時の関係づくりや備えを推進するのが目的で、災害時は応急活動の指揮や避難所運営を助ける。連合町内会の推薦を受けた人、または、一般公募で応募した方々がSBLとなり、現在774人中女性が189人在籍しているが、最初に公募で応募してきた方は女性が多かった。現在岩切地区では女性の方が多く、女性6に対して男性が1の割合である。</p> <p>町内会単位の災害対策本部などが開設される場合はSBLが中心となって行なうため、SBLになっている人の多くは、防災減災に関連することだけでなく、地域の活動を以前からやっていて、地域の人々の顔を思い浮かべられる人が多い。</p> <p>災害は起こるタイミングがわからず、特に災害弱者と呼ばれる人たちを守るためには、いろいろな立場の人がSBLとして活動していく必要があるため、男性だけでなく、女性</p>

の力、いろいろな世代の参加が大いに必要である。

老壮大学や小中学校での防災講座などを通じて、地域の方々の意識も向上し、実際の災害時には地域の人々の声掛けにより子供達が助けられたこともあった。逆に、年配の方は子供達からの声掛けで重い腰を上げることも多い。

(3)「岩切・女性たちの防災宣言2015」

2010年6月の宮城野区総合防災訓練の際に「岩切・女性たちの防災宣言」が発表された。当時は仙台市長・宮城野区長ともに女性であり、避難訓練などに障害者や高齢者、小さな子供を持つ母親など、いわゆる災害弱者が参加できていないことを危惧し、区長から声をかけられたことがきっかけとなり、地域のお母さん達50人ほどが集まって作られた。

この宣言が東日本大震災の際には活動の支えになり、震災後4年間を振り返って新たに宣言されたのが「岩切・女性たちの防災宣言2015」である。2015年の国連防災世界会議でも取り上げられた。

この宣言では、「自助」「共助」に加え、周りの人と助け合う「近助（きんじょ）」が大切であるとする。また、備蓄品の重要性や指定避難所の周知徹底など、情報量が多くなりすぎないように簡潔にまとめられた案内もされている。

災害時において意思決定をする場には、災害弱者に参加してもらうことが必要で、今後の課題でもある。大切なことは、多様な意見を聞く耳をもち、多様な人達で決定しなければならない、ということである。



開催地より

講師自身の体験談を交えながら、わかりやすいお話をしていただいた。

参加者からも、「刺激になった」「考えさせられた」という感想が多く、防災やまちづくりについて考える良いきっかけとなったものと認識している。

今回の講座を機に、市としても地域防災力の向上と、安全・安心な地域社会の実現のための活動推進を強化していきたい。